

第27回日本臨床整形外科学会学術集会
ランチョンセミナー3

OAに対する ヒアルロン酸関節注射は 不適切療法?

▶ 座 長

杉田 健彦 先生

本間記念東北整形外科・東北歯科
副院長

▶ 演 者

松野 博明 先生

松野リウマチ整形外科 院長
東京医科大学 客員准教授

▶ 日 時 2014年7月20日(日)
12:30~13:30

▶ 会 場 仙台サンプラザホテル
3F「宮城野」 宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1

研 修 単 位

日本整形外科学会教育研修単位:1単位

専門医資格継続(N)

分野【6:リウマチ性疾患、感染症】【12:膝・足関節・足疾患】

または、リウマチ単位(R)

OAに対するヒアルロン酸関節注射は 不適切療法？

松野 博明 松野リウマチ整形外科、東京医科大学医学総合研究所

今から40年前の1974年、Peyronらによりヒアルロン酸(HA)関節注射(IA)のヒト膝変形性関節症(OA)への有効性が示され、1987年には我が国初の分子量約90万のHAが、膝OA治療薬に承認された。また米国では10年後の1997年に認可された。国内では、2000年に分子量約190万のHAが、2010年には架橋形成し粘性換算でよりヒト関節液に近い分子量約600万のHAも承認され、HA療法はOA治療になくてはならないものとなっている。

これまで国内で頻用されているOAのHA療法は国際的にも評価されてきた。国際変形性関節症研究会(OARSI: Osteoarthritis Research Society International)のエビデンスレベル(LoE: Level of Evidence)はIa(無作為化対照比較試験メタ解析)で、LoEとして最も高く、エフェクトサイズ(治療群平均値－対照群平均値)÷標準偏差)は0.60で、これはCOX-2阻害薬の0.44やステロイドIAの0.58より上であった。しかし、推奨の強さを示すSOR(Strength of Recommendation)は64で、これはOAに対する温熱療法と同等で、非ステロイド性消炎鎮痛薬による治療の93と比較した場合低く、SORだけがやや否定的な見解を示していたが、注射にHAのIAはステロイドIAと比較し遅効性ではあるが、効果の持続が長いことが記され、全体としてはむしろ肯定的な意見であった。

しかし、2013年OARSIはガイドライン(GL)を大幅に改定した。まず患者を膝OAのみ、多関節型OAに分けそれぞれに合併症の有無を加えた4群に患者を分類して評価した。評価にはLoEの高い過去論文を用い費用対効果を除いたrisk-benefit(危険度と受益度)の観点から推奨度をappropriate(7/9点以上)、not appropriate(3点以下)、uncertain(4～6点)の3段階評価に切り替えた。その結果、HAのIAは、膝のみのOAではuncertain、多関節型ではnot appropriateと評価された。2014年2月の最新版、OARSIのGLでもこの結論は変わっていない。また2013年には米国整形外科学会(AAOS)もHAのIA療法についてGLで言及したが、メタ解析の結果、臨床的に改善を意味する最小閾値(MID < 0.5)に達していないことからHAのIA療法は推奨されないと結論づけた。これまでの推奨度と大幅に異なるこれらの結論は、OARSIの場合、今回のGLではHAと無関係と思われる副作用をriskとしているためであり、AAOSは本来リハビリ効果の指標とすべきMIDをHA療法の効果に応用したためと考えられる。これらの評価過程の疑問点について本セミナーで論説してみたい。